医療法人 水の木会 下関病院 広報誌 No.50

2020年8月17日 発行

ステップアップ

山口県下関市富任町6丁目18番18号
TEL:083-258-0338
FAX:083-259-8876
ホームページ:http://www.mizunoki.jp

目次

■超強化型老健としての取り組み ／ 江藤 竜一 豊松苑副施設長
■新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対して当院の対応
■みずの木ちえぶくろ ／ 心理技術科
■新任ドクターの紹介
■新入職員の紹介
■行事報告 ／ 作業療法科
■下関市民大会(テニス・ダブルス)に参加しました
■つなげようスタッフのわ

超強化型老健としての取り組み

介護老人保健施設 豊松苑 副施設長 江藤 竜一

日総研出版より発行されている「地域包括ケア時代の通所＆施設マネジメント」という専門誌に、「目指せ「強化型」老健！在宅復帰を可能にするケアプラン立案と事例」というテーマで、豊松苑の取り組みを紹介させて頂きました。

介護老人保健施設（以下、老健）は介護保険施設の1つで、下関市内に11施設あり、利用者の在宅復帰・在宅支援を目標にリハビリを中心とした支援を行っています。老健には5段階のランク（図1）が設定されており、サービスの質・量ともに高い施設が上位の評価を受けることができ、豊松苑は最上位の超強化型老健として運営しています。評価の内容は割愛させて頂きますが、紹介した内容から特に注力している取り組みを紹介させて頂きます。

一つ目は入所前後訪問指導です。利用者の自宅を訪問し、どうすれば退所後に自宅生活が送れるのかを検討する取り組みです。自宅環境を確認することにより、施設入所中に必要な支援が明確になり、意味のあるケアプラン作成につながります。ケアプランは、医師・看護・介護・リハビリ・管理栄養士・支援相談員・ケアマネが協働で実施する総合的な支援計画を指します。

入所前後訪問の実績（図2・3・4）をみると一目瞭然ですが、実施者ほど在宅復帰率が高くなり、施設利用日数も大きく差が出ます。

二つ目は家族参加のケアプラン作成です。豊松苑は認知症の利用者を積極的に受け入れている施設ということもあり、在宅生活には家族の協力が必要不可欠です。家族と一緒に支援を考え取り組んでいくことで、家族の理解も深まり、安心して在宅に受け入れてくださるようになっていきます。

当たり前の支援のように感じるかもしれませんが、医療・介護的な知識だけでは安定した在宅生活にはつながりません。様々な知識や経験が必要であり、迅速に柔軟に対応できる体制も必要です。

総合的な支援力を高めながら、地域にとって必要とされる施設で在れるように今後も頑張っていきたいと思います。

図2）入退所前後訪問指導の実施割合

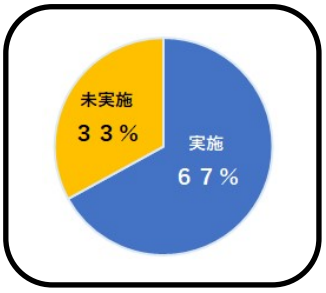


図3）在宅復帰者における入退所前後訪問の実施割合

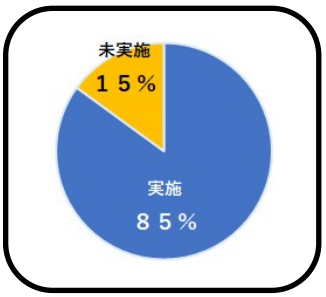


図1）在宅復帰・在宅療養支援等指標

算定要件等	超強化型 在宅復帰・在宅療養支援機能加算(Ⅱ)	在宅強化型	加算型 在宅復帰・在宅療養支援機能加算(Ⅰ)	基本型	その他型（左記以外）
在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値:90）	70以上	60以上	40以上	20以上	左記の要件を満たさない
退所時指導等	要件あり	要件あり	要件あり	要件あり	
リハビリテーションマネージメント	要件あり	要件あり	要件あり	要件あり	
地域貢献活動	要件あり	要件あり	要件あり	要件なし	
充実したリハ	要件あり	要件あり	要件なし	要件なし	

図4）入所前後訪問指導に見る平均在所日数

理念 地域の精神科基幹病院としての使命を果たし 信頼され親しまれる医療・福祉をめざします

患者さんのために

わたしたちは、慈愛と尊敬のこころをもって、患者さんに医療・福祉を提供します。
わたしたちは、個々の患者さんにあった、質の高い医療・福祉を提供します。
わたしたちは、患者さんの視点に立ち、人権に配慮した医療・福祉を提供します。

社会のために

わたしたちは、関係機関との連携を密接にし、地域のニーズに的確に応えます。
わたしたちは、教育・啓蒙活動を積極的に行い、地域に開かれた医療・福祉活動を実践します。
わたしたちは、限られた医療資源を大切にし、健全で効率的な医療・福祉運営に努めます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して当院の対応

下関市は北九州との人の往来が多く、下関市内だけの感染状況だけでなく、北九州での感染状況にも注意が必要となります。そのため、当院独自のフェーズ（感染症の警戒段階）を作成し、段階に応じた対応を行っています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大を受け、3月より面会の中止など大変ご不便・ご迷惑をおかけしました。7月より人数や時間、頻度など制限付きでの面会の再開をしました。しかしながら、7月22日以降、山口県内や下関市内での新型コロナウイルス感染症の感染確認がされ、再度、面会禁止とさせていただいております。入院患者さんやご家族様には、引き続き、ご不便・ご迷惑をおかけします。

以下、現在当院で行っている感染防止対策の一部をご紹介します。

当院の感染防止対策の一部

出勤時セルフチェック

職員は出勤時に、検温を行い発熱がないかの確認を行っています。また、呼吸器症状などの症状がないかの確認も行い、発熱や症状がある場合は出勤しないようにしています。

マスクの着用や手の清潔の徹底

職員のマスクの着用や手洗い、手指消毒の徹底を行っています。

正面玄関での検温と問診

入館される方には、正面玄関で検温と問診を受けていただき、発熱や症状がないことを確認させていただいています。

入院患者さんの体調管理

入院患者さんには、検温を1日数回行い、体調管理を行っています。

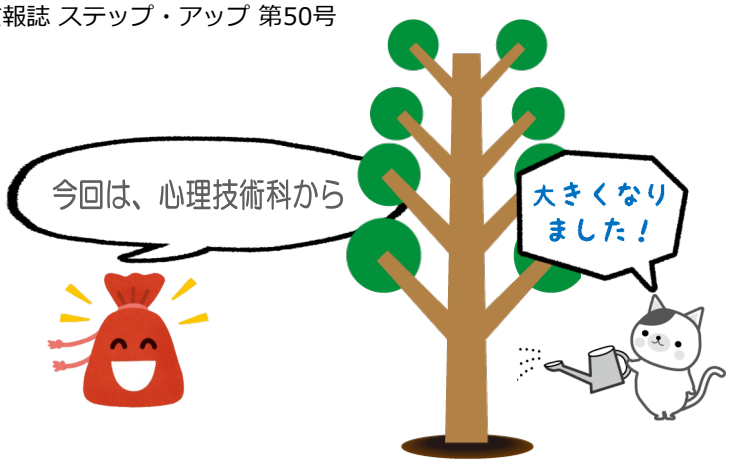
定期的な換気の実施

人が触れる場所（特にドアノブや手すりなど）も、定期的に消毒を行っています。また、時間を決めた換気の実施に取り組んでいます。梅雨が明け、気温が上昇してきます。冷房を使用することが増える時期ですが、定期的な換気をすることで、感染防止を図っていきます。

面会の再開については、下関市内や北九州市内の感染状況を踏まえ、検討していきます。

入館の際に、体温測定と問診の実施やマスクの着用、手指消毒などの感染予防にご協力よろしくお願いします。

みずの木ちえぶくろ



不測の事態への心構え

現在、新型コロナウイルスの蔓延によって、窮屈な生活を強いられている方が増えているかと思います。気分が落ち込んだり、孤独に感じたり、イライラしたりすることが多くなった方もいるかもしれません。

ただ、今回の出来事は誰もが未経験なこともあり、多少なりの気持ちの不調が起きるのは、むしろ自然なことと捉えてよいのではないかと思っています。また、ストレスに抗う姿勢を持つよりも、ストレスを受け入れる姿勢を持った方が、心身の疲労が蓄積されにくくなると言えるでしょう。

新型コロナウイルスの収束までまだ時間がかかりそうですが、まずは、自身の健康に気を配ることから始めましょう。

心理士：中本大介

新任ドクターの紹介

原 正吾 先生

令和2年5月から勤務させていただいています。もともと私は下関出身ですが、岡山県の大学へ進学し、学生時代含めて約25年間を岡山で過ごし、大学、精神科病院、総合病院とそれぞれで経験を積み、この度下関に戻ってきました。下関ではまだまだわからないことばかりで、みなさんにたくさん助けていただくと思いますが、自分の経験を少しでも下関病院の、下関の精神医療の発展に役立てていけたら、みなさんと一緒に盛り上げていけたらと思っています。よろしくお願いします。

新入職員の紹介

石本 征也 （男子リハビリ病棟／看護師）

趣味・特技　：釣り・スポーツ全般（バスケ以外）
好きな言葉　：I can do it.
長所　：人の話を聞くのが好きです
短所　：おっちょこちょい

藤川 智子 （女子リハビリ病棟／看護補助）

趣味・特技　：映画鑑賞
好きな言葉　：一期一会
長所　：よく笑う
短所　：優柔不断

須本 輝美 （認知症治療病棟／看護補助）

趣味・特技　：ドラマ・映画鑑賞
好きな言葉　：みんなちがって、みんないい
長所　：おおらかである
短所　：大雑把

行事報告

■園芸

作業療法で各病棟が病院中庭にて園芸を行っています。現在、きゅうりやじゃがいも、スイカ等を育てています。天気の良い日は水やりを行い、成長を楽しみにされています。収穫した野菜は感染予防の為、調理はスタッフが担当しますが、園芸メンバー全員で試食します。成長した喜びを分かち合い、次に育てたい花や野菜の話題が出ており、みんなで育てた達成感や楽しみ、季節感を感じて頂いている様です。

作業療法科：西山 英里

■病棟行事

認知症治療病棟では今年度より毎月の病棟行事を企画しており、5月(母の日会)、6月(父の日会)、7月(七夕会)を開催しています。七夕会では病棟スタッフが織姫と彦星に仮装して登場すると大笑いされる方が多く、盛り上がる会となりました。コロナの感染状況により、家族との面会や外出等に制限がかかり楽しめる機会が少ない期間が続いていますが、今後も季節感を味わいながら楽しめる活動を提供できればと思います。
8月は病棟内での納涼祭を企画しています！

作業療法科：川﨑 里絵

～とある職員の休日～

6月21日(日) 下関市民大会（テニス・ダブルス）に出場してきました。
今回は新型コロナ感染対策の為、山口県民のみ参加の大会となりました。
~~そのおかげで、~~ 結果はB級で準優勝することができました！
仕事はデスクワークが多い為、休日に身体を動かすことで心身ともにリフレッシュしています。

つなげよう！スタッフのわ 連載 第33回 スタッフでつなげる、趣味のはなし。

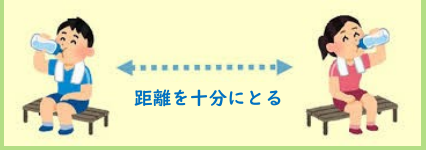
今回は　地域連携室 副室長 **守田 裕和** さんです。

子供が小さい頃は、よくキャンプに行き、ゆったりとした時間を楽しめていました。
しかし、子供たちが、ソフトボールのスポーツ少年団に入ってからは、日々の過ごし方が大きく変わり、そのほとんどを子供たちとのソフトボールに費やしていました。
現在は、上の子がソフトボールから硬式野球、下の子がスポーツ少年団から女子中学生のクラブチームに進んでいます。
兄の硬式野球はコロナ禍で、散々な思いをしながらも、地区大会で高等学校の最終年を楽しみ、本人なりに一区切りをつけるつもりのようです。下の子のソフトボールは始まったばかりなので、まだまだソフトボール中心の毎日が続きそうです。

次回は　精神保健福祉科 **松岡 麻理** さんです。

編集後記

今年の梅雨は記録的な豪雨「令和2年7月豪雨」に見舞われ、各地で大きな被害が出ました。
梅雨が明け、暑い夏がやってきましたが、マスクを着けての活動は熱中症のリスクが高くなります。
そこで、環境省からでている「熱中症予防行動」のマスク着用に関するポイントを紹介します。



・気温、湿度の高い中でのマスク着用は要注意
・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

以上、熱中症・新型コロナウイルスに気をつけて過ごしましょう。

（広報委員　村上 宗）